

第1日目

出発の会（けやきプラザ前）



8月5日（土）、6時40分にけやきプラザ前に集合、出発の会を行いました。  
大勢の方に見送られて広島に向かいました。

湖北台中学校  
桐山 悟至さん

## 我孫子市平和記念事業 広島でのスケジュール

<8月5日（土）第1日目>

- 1 広島中・高生ピースクラブ  
「8月5日事業」
  - ・原爆被害の概要説明
  - ・慰霊碑ガイド
- 2 国立広島原爆死没者追悼祈念館の見学
- 3 折り鶴タワーの見学

第1日目8/5(土)の予定

広島中・高生ピースクラブ「8月5日事業」原爆被害の概要説明



湖北台中学校  
桐山 悟至さん

1 日目のはじめは、広島中高生ピースクラブ「8月5日事業」に参加しました。広島の高校生による原爆被害についての説明を聴き、原子爆弾の恐ろしさを改めて感じました。

原子爆弾の仕組みとそのエネルギーについて、また原爆の被害の多くは、「熱線」「爆風」「放射線」の3つということを知ってもらいました。

普段では聞けない貴重な話を記憶にとどめようと、メモをとりながら話を聞いていました。

平和記念資料館東館には、アメリカ元大統領、オバマ大統領が広島を訪問した際に折った折り鶴が展示されていました。



広島中・高生ピースクラブ「8月5日事業」慰霊碑ガイド



久寺家中学校  
中島 未菜さん

広島の高校生のガイドで、平和記念公園内の慰霊碑等を見学しました。

右上の写真の建物は、もとは「広島県立商品陳列館」という名前で、広島県内の物産の展示・即売や美術展覧会場として使われていました。しかし、爆風の影響により建物が崩壊し、現在のような姿になりました。戦争の悲惨さを後世に伝え、核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして「原爆ドーム」と名付けられ残されています。

左下の写真は、「嵐の中の母子像」です。原爆の惨禍の中を二人の子供をかばいながら逃げていく母の姿です。爆風を避けるために前かがみになった母親は、右腕で赤ん坊をしっかりと抱き、左腕は腰に伸ばして幼子を背負っています。腕や脚が特に大きく強調されて、「どんな激しい嵐にも負けないぞ」という力強さを表しています。

右下の写真は、「動員学徒慰霊塔」です。勤労活動に参加して亡くなった学徒や戦争で亡くなった学徒の霊を慰めるために建てられました。



久寺家中学校

吉田 直輝さん



左上の写真は、被爆した墓石です。原爆の爆風で浮き上がり、その間に石片が入ったためか、重い墓石の下に石片が挟まれています。こんなに重い墓石が動かされてしまうと考えると、その爆風がどれほどのものかがわかります。そして、それと同時に、この爆風を人間が受けたらどれくらいの被害が出てしまうのだろうかと考えさせられました。

右上の写真の「原爆供養塔」には、当時、広島で燃やされたたくさんの身元不明の人骨が埋葬されています。

私たちも手を合わせ、亡くなった人々に祈りを捧げました。

この原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんは、2才の時、爆心地から 1.7km の地点で被爆しましたが、大きな外傷はなく元気に育ちました。小学校6年生の秋、運動会のリレーで活躍するほど、活発な子どもでした。しかし、その運動会のあと、おたふく風邪のような症状が出て、なかなか治りませんでした。原爆症のひとつ、白血病でした。

禎子さんは折鶴を千羽折れば願いが叶って回復すると信じ、折り続けました。彼女の願いは叶わず、闘病生活のあと、1,300羽の折鶴を残して12才で亡くなりました。

この悲しい知らせを受けて、級友たちが禎子さんとほかの原爆で亡くなった子供たちのために碑を建てる運動を始めました。日本全国の 3,000 の学校と9カ国の外国から寄付が集まりました。この基金により、昭和 33 年 5 月 5 日、原爆の子の像が平和記念公園内に建てられました。折鶴は平和のシンボルとなったのです。

三脚のドーム型の台座の頂上に金色の折り鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、左右には明るい未来と希望を象徴する少年少女の像があります。像の下におかれた石碑には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」という碑文が刻まれています。



広島中・高生ピースクラブ「8月5日事業」慰霊碑ガイド



白山中学校  
瀬戸 大晴さん

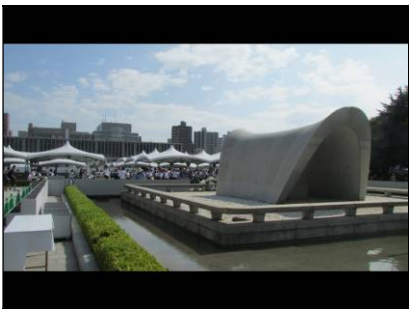
左上の写真は、「祈りの像」です。戦争での犠牲者への慰霊と平和への祈りを込めて終戦15周年にあたって建てられました。

広島中高生ピースクラブの方々が平和記念公園周辺の記念碑や被爆したものなどを巡りながら説明してくださいました。

右上の写真の「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」は、原爆で亡くなった韓国人のために建てられました。原爆は、日本人だけでなく、広島にいた韓国人や中国人、東南アジアの学生、また捕虜として広島にいたアメリカ兵も含め、一瞬にして多くの命を奪いました。元々は、平和記念公園の外にありましたが、人種差別等の問題で平和記念公園内に移転されたそうです。

右下の写真は、「旧相生橋碑」です。アメリカ軍が原爆の投下目標とした旧相生橋の場所に、当時の欄干とともに建てられました。

## 国立広島原爆死没者追悼祈念館の見学



## 折り鶴タワーの見学



我孫子中学校  
西村 百夏さん

左上の写真は、「原爆死没者慰霊碑 平和の池」です。  
国立広島原爆死没者追悼祈念館の見学をしました。  
被害があった都市や当時の状況の写真、原子爆弾のしくみを知りました。  
被爆した方へ当時の状況とその後の生活についてインタビューした動画を見ることができました。  
折り鶴タワーの見学をしました。  
被爆したときに焼け野原だった広島市は大都市へと発展していました。  
原爆ドームの被害の状況を上から確認することができました。

**我孫子市平和記念事業  
広島でのスケジュール**

＜8月6日（日）第2日目＞

- 4 平和記念式典への参列
- 5 原爆の子の像を参拝と千羽鶴奉納
- 6 原爆ドーム見学
- 7 袋町小学校平和記念資料館見学
- 8 本川小学校平和記念資料館見学
- 9 広島平和記念資料館見学
- 10 灯ろう流し

第2日目8／6（日）の予定



平和記念式典への参列・原爆の子の像を参拝と千羽鶴の奉納



湖北台中学校  
古川 希さん

日程2日目、8月6日の朝、私たちは、「広島平和記念式典」に参列しました。原爆が投下された時間8時15分、平和への祈りと被爆者への慰霊を込めて、黙祷を行いました。

次に、広島市長、広島市議会議長、遺族代表、こども代表、被爆者代表の方々による献花が行われました。

松井広島市長による、核兵器の廃絶と、世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすという平和宣言が行われました。

こども代表による「平和への誓い」が宣言されました。

安倍内閣総理大臣があいさつされました。

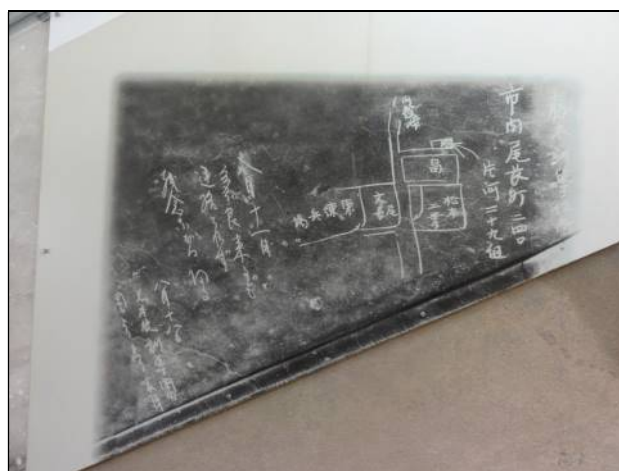
最後に、「ひろしま平和の歌」を参列者全員で合唱しました。

式典終了後、私たちは「原爆の子の像」に、折り鶴を奉納しました。

奉納した折鶴は、我孫子市民から集まった多くの折鶴のうち、一つの千羽鶴です。

そして、「原爆の子の像」に、平和への祈りを捧げました。

袋町小学校平和記念資料館見学



湖北中学校  
高須 万悠香さん

袋町小学校平和記念資料館を見学しました。袋町小学校は、72年前、爆心地から約460mの地点にあり、実際に被爆しました。当時としては、近代的な鉄筋コンクリートの建物でした。

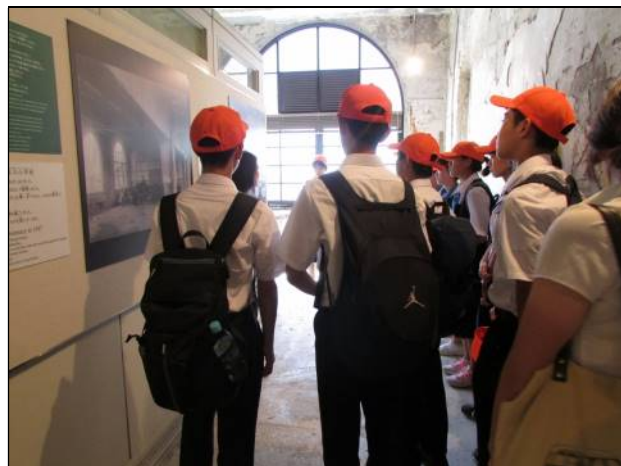
爆風と高熱で外郭を残し、廃墟となりましたが、復旧し、戦後50年間は「西校舎」として使われていたそうです。現在は、36点のものが展示されています。

下の2つの写真は、被爆した校舎の壁に残されていた、離れ離れになった親や子を探す伝言です。袋町小学校は、被爆者の避難場所、救護所となっていたので、児童、職員、地域の住民の安否を確認するために、真っ黒に煤（すす）けたコンクリートの壁にチョークを使って、「伝言」を記しています。

一体、どのような思いでこの伝言を記していたのでしょうか。



## 本川小学校平和記念資料館見学



湖北中学校  
高須 万悠香さん

次に、本川小学校平和記念資料館を訪れました。ボランティアガイドの方の案内で見学をしました。

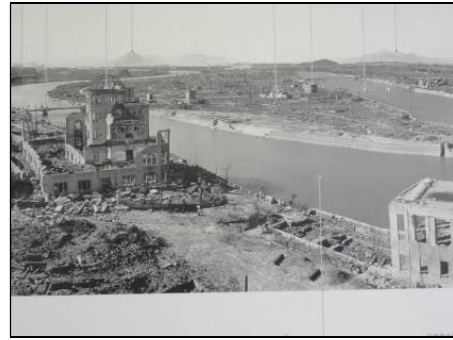
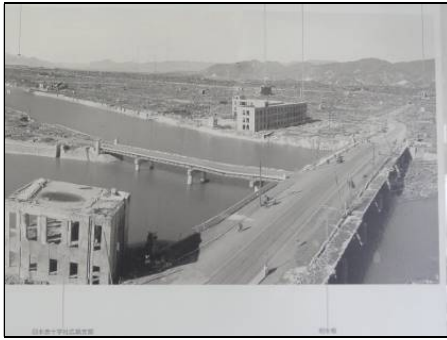
本川小学校は爆心地の最も近くで被爆した小学校です。袋町小学校と同様、鉄筋コンクリートの造りだったため、全壊を逃れることができました。

本川小学校平和記念資料館には、写真パネル30点、被爆資料30点が展示されています。

たくさんの展示がありましたが、一つ一つが原爆の恐ろしさを物語っていました。



本川小学校平和記念資料館見学



湖北中学校  
高須 万悠香さん

上段左の写真は、被爆直後の広島風景です。形が残っている建物はこの写真の中に2つほどしかありません。T字型の端が相生橋で、その奥に見えるのが、私たちが見学した本川小学校です。

上段右の写真は、被爆直後の原爆ドーム周辺です。先ほどの写真と同様、ほとんど何も無い、瓦礫しかない状態です。

中段の写真は、被爆後の授業の様子です。机、いす、黒板以外には何も無く、窓ガラスも壊れていることが分かります。

下段左の写真は、外から見た校舎です。子どもたちは、こんな建物の中で授業を受けていたのです。

下段中央と右の写真は、運動会の様子です。窓ガラスも吹き飛んだ外郭だけの校舎の前で活動しています。

大好きな街、大好きな人を奪われた中でも、子供たちは一生懸命生活していました。

本川小学校平和記念資料館見学



湖北中学校  
高須 万悠香さん

左上の写真は、熱線で溶けた鉄かぶとです。鉄でできたものが変形してしまうほど、高い温度だったことがわかります。

右上の写真のガラスは、高熱によって変形し、口を閉じられていて、中には72年前の液体がそのまま封じ込められています。

左下の写真は、溶けたガラスのかたまりです。被爆した時に溶けたガラスのかたまりはいくつも展示されています。

これだけの高熱で、たくさんのものが原爆によって、壊されたということです。

地下室には、被爆する前の広島のアジア平和資料館が展示されていました。ここでは、ガイドの方から、「井森清子」という、本川小学校で被爆された方のお話を聴きました。



広島平和記念資料館見学



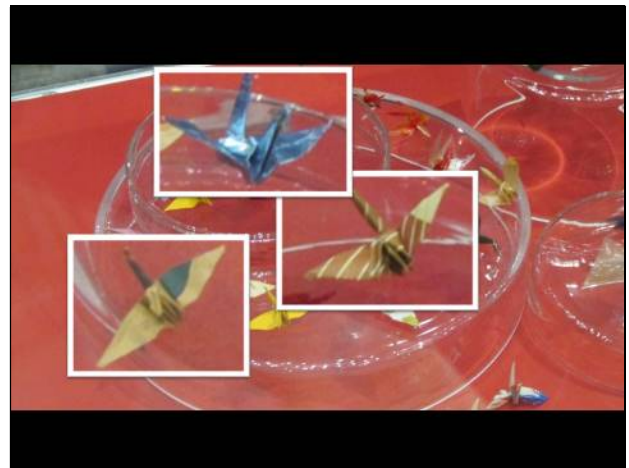
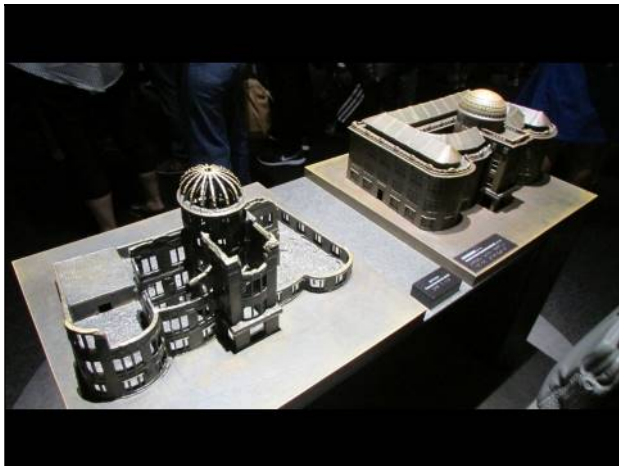
我孫子中学校  
中川 孔明さん

次に、広島平和記念資料館の見学をしました。  
はじめに美しかった広島の様子が目に入ってきました。  
しかし、その写真の終わりには、広島に原爆が落とされた時刻  
などが刻まれています。この時刻の向こうの展示は、原爆が落  
とされた直後の様子でした。原爆の恐ろしさが伝わります。そ  
の恐ろしさとは、今では伝えることができないくらいのことだ  
と思います。

これは、原爆が投下された瞬間を再現しています。原爆の与  
えた被害の大きさがわかります。その被害の大きさは、人々の  
心に大きな傷を残し、その傷は二度と治ることはないと思いま  
す。



広島平和記念資料館見学



我孫子中学校  
中川 孔明さん

3歳の鋳谷伸一（てつたにしんいち）ちゃんは、三輪車に乗って自宅前で遊んでいるときに被爆し、その日の夜亡くなりました。父親は、ひとりで墓に入れるのはかわいそうだと、亡骸（なきがら）を三輪車とともに裏庭に埋葬しました。40年後、父親は子どもを墓地に移し、この三輪車を資料館に寄贈しました。

これは、原爆の熱によって、溶けてしまったピンです。原爆がそれほどの温度だったのか想像することもできません。

これは、佐々木禎子さんが折った鶴です。千羽の鶴を折ることで病気が治ると信じていたため、禎子さんは、千羽以上の鶴を折り続けました。当時、折り紙は高価で、薬やお菓子の包み紙で折られています。

## 原爆死没者慰霊碑の参拝



布佐中学校  
服部 琉佳さん

この原爆慰霊碑は、ここに眠る犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持から、埴輪型に設計されたといえます。埴輪の中央に石棺があり、その中に原爆犠牲者の名を記入した過去帳が納められています。

この碑文の「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という言葉については、広島市は碑文の趣旨を正確に伝えるため、説明板を設置しました。その説明板には、「碑文はすべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願う。真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている」と記されています。



## 灯ろう流し



布佐中学校  
服部 琉佳さん

2日目の最後は、とうろう流しを行いました。  
原爆投下から2年後、親族や知人を原爆で失った遺族や市民たちが追善と供養のため、手作り灯ろうを川に流したのが「とうろう流し」の始まりとされています。  
灯ろうには、亡くなられた方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的ですが、  
最近では国内外からこられた方々が「平和への思い」を書かれる光景も目立つようになりました。  
長い歴史を持つ「とうろう流し」は、「慰霊」と「ピースメッセージ」の両方の意味を持つようになったようです。



**我孫子市平和記念事業  
広島でのスケジュール**

＜8月7日（金）第3日目＞

- 11 広島城見学(荒天により変更)
- 12 被爆者の体験講話聴講

第3日目8/7(月)の予定

※広島城の見学は荒天により中止し、  
代わりに2日目に見学した広島平和記念資料館を再度見学しました。

被爆体験講話聴講（中西 巖さん）



久寺家中学校  
中島 未菜さん

被爆された中西さんからお話をいただきました。中西さんは、仕事場へ向かっている時に被爆したそうです。原爆投下後、気を失ってしまい、目を開けると周りは真っ黒で、たくさんの人々の悲鳴が聞こえてきたそうです。数日後には、林や森で人を焼く嫌な臭いがしたそうです。

上段右の写真は、「陸軍被服支廠（りくぐんひふくししょう）」です。ここは、軍帽から軍靴、ベルト、ボタンまで陸軍関係の被服一式を調達・修理・保管する大施設でした。

家族のために陸軍に入隊したという中西さんに、「家族のこと以外に自分のことを考えなかったのですか」という質問に、「どうせ自分は20歳になったら軍隊に行き、戦争で死んでしまうと思ったので家族のことを大切にしようと思った」とおっしゃっていました。

こうして3日間の活動を終え、広島をあとにしました。

